

■ ガバナーメッセージ

地球上すべての人がきれいな水とともに過ごすために

◎ 国際ロータリー第2590地区 ガバナー 金子 大

「春隣」と言われる2月後半は、暖かく過ごせる日も徐々に増えてきました。雪国で春と言えば雪解けでしょう。雪の下を流れる小川から水音が聞こえてくる光景は、私たち日本人の原体験でしょうか。偶然のことながら、3月は「水と衛生月間」です。これは、生命の源である水の安全な利用を考え、それを実現するために活動するきっかけを得るためのものです。

安心して飲むことのできる水が生活環境になく、毎日何時間もかけて水汲みにでかける子どもたちがいます。学校に通いたくても不可能です。また、汚れた水で病気になったり命を落としたりする人々も後を絶ちません。水のせいで未来を閉ざされている国や地域が、まだ数多く存在するのです。古くからきれいな水に恵まれてきた日本人には、にわかに想像ができないでしょう。

§

ロータリークラブは、家庭と学校の水、衛生設備の改善をすることで子どもたちの教育環境を向上させる活動を世界的に行っています。特に、水汲み仕事を強いられている女子を教育の場に戻す努力をせねばなりません。

今までの実績を一部挙げますと、タンザニアで12のクラブが地元のパートナーと協力し、1,500人の村人たちのために水の供給システムを設置しました。また、インドでは4,000人の人たちが利用できる雨水貯水タンクと配水センターを設置しました。地元の女性や35校の学生が参加した研修も行いました。グアテマラのまちにある10校に通う1,793人の子どもたちのために、トイレ、手洗い場、貯水タンク、研修を提供しました。

§

ご紹介した活動は、ほんの一部に過ぎません。まだまだ多くのプロジェクトが実施され、計画されています。ロータリークラブは、現地で井戸を掘るだけではなく、「WASHプログラム*」へも投資しています。ロータリー財団からの補助や募金活動で得た資金を元に、支援を図っています。またそれ以外にも、グローバル補助金による奨学金を活用し、水と衛生分野の専門家を育成する活動も行っています。これは、例えばWASHの



専門家に必要とされる知識や技術を習得し、持続可能な発展に貢献できる次世代のリーダーを育てるための投資です。

§

「水と生きる」というスローガンを掲げている日本の飲料メーカーがあります。この言葉は企業姿勢を示すだけでなく、まさに人間の本質を突いていると思っています。水と衛生月間が過ぎたら水に流してしまうのではなく、今この瞬間にも安全な水がないせいで危機にさらされている人々がいることを心に刻んでいたいものです。

横浜市の水源である道志川の名前を冠したミネラルウォーターもあります。こういった透明で清潔な水を海外に送ることも、ひとつの方法でしょう。皆さんのクラブでも奉仕プロジェクトを検討・企画してみてもいかがでしょうか。

*WASH: WAter Sanitation Hygiene Programの頭文字を取ったもの。ユニセフのプログラムのひとつで、安全な飲料水を継続的に利用できない人々を半減させることを目的とする。